

平成28年度 専門学校東京国際ビジネスカレッジ

自己評価報告書

平成 29 年 5 月 1 日

学校法人創志学園



専門学校 **東京国際ビジネスカレッジ**  
TOKYO INTERNATIONAL BUSINESS COLLEGE

### 1. 学校の教育目標

幅広い外国語教育と国際感覚を兼ね備えたビジネスのスペシャリストを養成するための専門教育及び人格形成に必要な教育を行うことを目的に掲げ、国際社会において通用する専門性の高い知識と教養を修得する。

### 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

(1) 希望進路に即したカリキュラム展開(2020年東京オリンピックを視野に入れホテル業、旅行業等のサービス業への就職を可能とする英語力及びホスピタリティ・マインド向上を目指すと共に、専門技能の習得及び学術的知識向上を目指す。

(2) 留学生においては、興味のある分野の学習を通じて日本語力を伸ばす等、日本語力が向上するカリキュラムを導入する。

(3) Business English & Japanese Business Culture コース(カリキュラムの50%が英語授業)を Management & Business English コースへと名称変更

(4) 英語力別に Foundation クラスと Advanced クラスに分け、ビジネスの勉強と英語力向上を目指し、国内外での企業への就職、大学への進学を目指す。なお、Foundation クラスにおいては一般生も率先して募集を行う。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 3 ② 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	④ 3 2 1

#### 【総括・特記事項】

・学校の理念・目的・育成人材像について、教職員がしっかり理解し、学生へは授業を通じ伝えている。・保護者へは、入学式・卒業式への案内状を通じ、式典への列席を促し、式典を通じ当校をより良く知ってもらうようにしている。

・保護者会を開催し、教育理念・目標を周知させている。

(2). 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・目的等に沿った運営方法が策定されているか	④ 3 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	④ 3 2 1
・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 ③ 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

- ・教職員全体会議を月1回開催すると共に、授業展開に関する教職員セミナーを通じてホスピタリティの理解を深め、チームワーク強化を行い、現場力向上に努めている。
- ・学校の目的、目標達成のため、企業より情報を求めている。
- ・事務局における業務分掌の見直しを行い、業務の効率化を図る。また、教務プロジェクトの業務の見直しを行い、更なる効率化を図るとともに学校運営力向上を目指していく。
- ・ホームページだけではなく、年間に数回ニュースレターを作成し、出身学校へ送り、教育活動に関する情報公開を行っている。
- ・学校関係者評価委員会報告書については、情報公開のための準備を行っている。
- ・学生の学籍管理はデータ化されており、出席証明書、成績証明書等の発行業務の効率化が図られている。

## (3). 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4 ③ 2 1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 ② 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか。	④ 3 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

## 【総括・特記事項】

- ・関連分野における実践的な職業教育として、提携先企業でインターンシップを実施している。
- ・学生の指導方法や授業展開に関する教職員セミナーをインハウス、又は外部講師を招いて実施している。
- ・全学生に即したカリキュラムの改善を図っていく。また、授業アンケート(年2回(7月・12月))の質向上とアンケート結果に基づいた改善を迅速に行う。面談や学校行事などを通じて学生一人ひとりへの指導を心がけた運営に努める。
- ・英語教育の強化及び英語でのビジネス関連科目数を拡大し、英語力(TOEIC スコア)アップ(550 点以上取得者増)を目指す。特に、Business English & Japanese Business Culture コースでは高得点取得者(最高 900 点、平均 645 点)を輩出、外国人留学生の就職にもつながっている。

(4). 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・退学率の低減が図れているか	④ 3 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

【総括・特記事項】

- ・学内で企業説明会を開催し、就職活動を早期にスタートできるように十分に指導している。
- ・学校全体での「就活道場」及び各コースでの「進路合宿」を活用し、就職指導に力を入れている。
- ・就職に活かせる「資格対策講座」についても継続して開講し、日商簿記(3・2 級)、全経簿記(2・1 級)、TOEIC(600 点以上)の取得を視野に入れ指導を行う。
- ・クラス担任制により学生一人ひとりのきめ細かいケアを行い、退学率の低減を行っている。

(5). 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	④ 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教員環境が整備されているか	4 ③ 2 1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の 取組が行われているか	4 3 ② 1

【総括・特記事項】

- ・ビジネス特別講義を開催し、(株)サマンサタバサジャパンリミテッド代表取締役会長兼社長 寺田和正氏に講演頂いた。
- ・(株)チームアンビシャスと連携し、最新の就職情報を基に学生指導を行う。
- ・出席率・成績・授業態度においては、クラス担任より保護者へ連絡を行っている。また、適宜学生の家庭訪問を実施し、学生の生活状況把握に努めている。
- ・卒業生には、学内で実施している資格対策講座を受講できるようにしている。受講料は徴収していない。
- ・ヘアメイク以外に、CG が学べる外部授業を組み入れ、技術を習得し、就職に繋げている。

(6). 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

- ・避難訓練を実施し、非常時における教職員の役割を把握するとともに、学生へも非常時の行動を指導している。
- ・災害時で使用する水・カンパン・簡易トイレ等を備蓄している。

(7). 学生の受入募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

- ・一般生募集においては、高校訪問、オープンキャンパスに力を入れ、知名度向上及び高校生（高校教師）が求めるカリキュラム構築を行う。また、ターゲットとなる首都圏、北関東、東北における認知度向上に努める。また、HPリニューアルを行っている。
- ・国内留学生募集においては、経済的に余裕があり、勉強意欲を有する者の選別方法（入試方法）を検討している。
- ・全教職員で学生募集活動を実施している。
- ・学校説明会において、教育成果を正確に伝えている。
- ・入学選考方法については、募集要項に明記し、適切かつ公平な基準に基づき行われている。
- ・学納金については、学生および保護者の負担を軽減するために、本校独自の奨学金や分納制度を利用できるようにしている。

(8). 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
・財務について会計検査が適性に行われているか	④ 3 2 1
・財務情報公開に体制整備はできているか	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

- ・中長期的に学校の財務基盤は安定している。
- ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。
- ・会計検査が適正に行われている。
- ・学園ホームページにて公開している。

(9). 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 ③ 2 1
・自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

- ・法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営を行っている。
- ・全教職員で個人情報の扱いに十分注意し、管理している。法人本部より個人情報の取扱いについての指導を受けている。
- ・自己評価の点検項目について今後も検討を重ねていく。
- ・ホームページにて自己点検・自己評価表の公開を行っている。



(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練を含む)の受託等積極的に実施しているか	4 ③ 2 1

【総括・特記事項】

- ・浅草橋紅白マロニエ祭り、浅草地域帰宅困難者及び外国人観光客対応訓練ボランティア等に学生が積極的に参加している。
- ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託については、積極的に受け入れていきたい。

(11). 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・留学生の受入れ・派遣について戦略を行っているか	④ 3 2 1
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④ 3 2 1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④ 3 2 1
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

- ・留学生においては、卒業後の進路、生活等の相談を丁寧に行い、一人ひとりの現状を把握した上での指導方針を徹底する。日本語学科においては合否基準の変更、入国前事前指導、入国後の個別 1・3・6 カ月のフォロー計画を立案し、指導を行っている。
- ・学生の学習・生活指導において学内で適切な体制が整っている。学生のアルバイト先の情報を把握し生活指導に活かしている。
- ・日本留学 AWARDS4 年連続上位ノミネート。(財)日本語教育振興協会が主催し、日本全国 400 校を超える日本語学校の教職員が留学生に勧めたい進学先として、専門学校部門の上位ノミネート校として4年連続表彰された。

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校の教育理念・目標を学生に対して理解、共有を徹底させることが課題である。そのため、授業を通じて高い国際感覚を養うための「ホスピタリティ精神」や「異文化理解」の重要性を伝えている。しかし、授業だけではなく、学生生活を通じて伝えていく機会を増やしていかなければならないため、今後は更に様々な取り組みを充実させる必要がある。

学内外でのセミナーを活用し、教職員の能力開発の機会を設けているが、グローバル化の進展に伴い今後更に多様化していく学生のニーズに応えるために、SD/FDの機会をより多く設けていく必要がある。

また、学生のモチベーション向上及び卒業後の進路に対する目標設定を入学時より各担任レベルだけではなく学校全体で行っていく必要があると考える。各種研修の年間スケジュールを作成し、学生のニーズとウオンツに合わせた授業展開を行い、勉強内容に興味を抱かせる仕組み作りを徹底する。現状実施されている資格取得を目的としたゼミナールの充実化を図り、更なる専門教育の充実を図る。

企業との連携においては、学内で企業説明会を開催し企業が求める人物像を学生が知ることができた。また、本校の教育や学生を企業の方に知っていただく良い機会となった。地域との連携においては、浅草地域の帰宅困難者避難訓練ボランティア参加や、浅草橋紅白マロニエ祭りボランティア参加など様々な貢献を行っているが、今後も密に交流を深めていく必要があると考える。

2020年に実施される東京オリンピックに向け、今後はホスピタリティ精神を持った人材が求められるようになる。本校の教育理念を理解し、高い国際感覚とホスピタリティ精神を持つ人材育成のために取り組みを強化していく。